

自分らしく生きる！

～誰もが暮らしやすいまちづくりを目指して～

今回の特集は、「LGBT」という言葉の理解を深め、多様性を認め合い、人権を尊重し、誰もが自分らしく暮らせる社会づくりをめざし活動を行う一般社団法人 ELLY のメンバーからお話を伺いました！

LGBTって？

L [レスビアン] lesbian 女性同性愛者	G [ゲイ] Gay 男性同性愛者
B [バイセクシュアル] Bisexual 両性を恋愛対象とする	T [トランスジェンダー] Transgender 身体の性と心の性が不一致

LGBT はこれらの4つの言葉の頭文字をとった総称語です。この他にもさまざまなセクシュアリティがあります。

性のあり方は人それぞれ

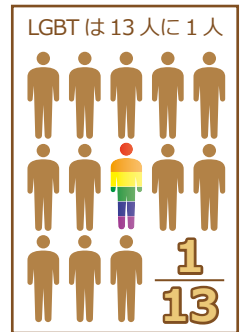
性のあり方は、おもに3つの要素があります。

- **からだの性（身体的な性）**
性染色体や身体的な性別
- **こころの性（性自認）**
自分自身が自分の性別をどう考えているか
- **好きの性（性的指向）**
恋愛対象が主にどの性別か

これらの要素がそれぞれに関係し合うと性のあり方はさまざまなものになります。

一般社団法人 ELLY マネージャー 佐野 恒祐さんに聞く！ ～現状とこれから～

これまで LGBT 講演の聴講者約 15,000 人（高校生以上対象）に『三重県民 LGBT 意識調査アンケート』を取ってきてみてきたものがあります。『LGBT という単語は知っているが正しい知識がない』特に 10 代の方です。そして中勢地区の活動が弱いこと。LGBT 当事者の方々は自己否定感から自殺やいじめ、不登校等に自分自身を追い込んでしまう傾向にあります。正しい知識がない故に知らないうちに傷付けてしまう言葉を発信してしまったり、先が見えない環境を作ってしまったのが今の現状社会なのかな？と思います。危機感の低さを私たちも気付くことができました。近くの身内ほどカミングアウトはしづらいです。ALLY（理解者）の方々に支えていただき、力を貸してもらい三重県全体で作り上げていくことが出来る活動です。見えない差別に苦しむことなく、LGBT を含む多様な方が生きやすい、住みやすい三重県。その為に継続した啓発活動、環境整備アドバイザー、居場所づくり、企業内配慮等コンサルタントをします。見える形として東京オリンピックまでに、日本初の同姓パートナーシップ証明書が発行出来る三重県を目指します。



一般社団法人 ELLY 代表 山口 颯一さん

この啓発活動をまだしていなかった今から約 3 年前、トランスジェンダーに悩んでいる県外の高校生の子の相談に乗っていました。その子は親にカミングアウトをすると、親からは全く理解のない言葉を浴び、ひどく傷ついている様子でした。元気が無く日に日に連絡が返ってこなくなり心配していたある日、ついに連絡が途絶えました。

その半年後、共通の知り合いを通して、その子が自殺したことを知りました。すごく憤りを感じ、そのことがきっかけで LGBT のことを知らない方に啓発の必要性を感じ活動をしていこうと決心しました。「理解する」その前に「まずは知ってほしい」。LGBT は身近な存在で自然的な自分らしさでもあります。LGBT であることで悩み、生きづらくなる社会にするため、学校・企業・行政・病院等で講演活動を続けて「ALLY」を増やしていきます。そして、LGBT をきっかけに人それぞれの生き方が尊重され社会がより豊かになればと思っています。

※ALLY…ALLY（アライ）とは、LGBT の理解、応援者。



ステッカー



伊賀市で作成した
マグネットステッカー

伊賀市人権生活環境部 人権政策・男女共同参画課

にじ☆みえカフェって？



LGBT 当事者の方やその親御さんなどが相談・交流ができる場として毎月 1 回開催しており、10 代～ 50 代の方が県内各地から参加しています。周囲に相談できずに悩んでいる人の参加を募っています。(参加費 500 円) 参加してみたい方は、こちらまでご連絡ください。

メールアドレス : info@ellyjapan.com

にじ☆みえカフェ担当 出村 友希さん

ずっと性別に違和感があり、性的指向も他とは違うということ「自分だけがおかしいんだ」と思っていました。インターネットで調べてたどり着いた名古屋の当事者カフェに行き、初めて当事者に会い、相談するうちに、「自分だけじゃない」と安心して、居場所ができたことをとても嬉しく思いました。その後他にも三重県から当事者が来ていることを知り、三重県にもこのような場所が必要だと感じ、中高生でも安心して行ける、そして僕のように 40 歳近くになっても行きやすい落ち着いた雰囲気のカフェを作りたいと思いました。会を重ねるうちに、まだまだ社会では理解されていない、自分らしさを出せないという現実も痛感します。LGBT その他、当事者にはそれぞれの悩みや困っていることがあります。直接会って話したり、相談できることは他では代えがたい安心感があります。当事者に安心して来てもらえるようにクローズで開催していますが、今後どのように当事者に知ってもらおうか？ということに悩んでいます。今までは、SNS や講演会でお伝えしてきましたが、本当に困っている人が、SNS やインターネットでの情報も得ることができずに悩んでいるのではないか？と思っています。

にじ☆みえカフェに参加している 10 代～ 50 代の方々にお話を伺いました。



浦ママさん (50 代)

私は LGBT 当事者の母親で、子どものカミングアウトをきっかけに相談できる場所を探していました。三重でもこのような当事者が集まれる交流会をしたいという思いをもった出村さんと出会い、是非その夢を実現して欲しいと応援し続けています。三重県には、息子一人だけが悩みを抱えていると思っていましたが、ここにきて仲間がいることが分かり、息子も私も元気になりました。今後はこの活動をライフワークにしていきたいと思っています！



A さん (40 代)

新聞記事でにじ☆みえカフェのことを知り、参加するようになりました。普段は誰にもカミングアウトせずに生活しています。同じ悩みをもった人と交流したり、中学生の参加者の相談にのったり、気兼ねなく話をしたりと、安らぐことができとても助かっています。



がんちゃん (40 代)

子どものころから、性別に違和感を持っていました。女性として過ごしてきたけれど、スカートへの抵抗はずっとありました。自分の感情は抑えこんで自分は変態なんだ、と思い込み、周囲に合わせて何十年も生きていました。4 年前に鬱状態になりましたが、ここに参加するようになってから、自分の気持ちに正直になることができました。子どもが 2 人いて、子どもの 1 人もセクシュアリティに関する悩みを抱えています。当事者でありながら当事者の親であり、ありのままを受け入れられるようオープンな家庭を築いています。



YSK さん (20 代)

ツイッターでにじ☆みえカフェのことを知り、参加するようになりました。県外ではオープンな場所での開催もありますが、にじ☆みえカフェは個室なので顔や個人情報が漏れることもありません。三重県でこのような会はめずらしく、SNS でつながることができない人や、さまざまな方とつながりができ、交流することができました。



冬馬さん (10 代)

高校 1 年生のときは女子として過ごしていました。スカートを履くことに抵抗があり 2 年生のときはズボンを履くようになりました。そのころ、ツイッターでにじ☆みえカフェのことを知り、参加してみようと思いました。ここにきて、輪が広がり、知識も増えました。中学校 3 年生くらいからインターネットで自分の性別違和について調べていましたが、インターネットでは得られないことを、ここにいる先輩たちから学ぶことが多いです。人生相談ができた、将来こんな大人になりたい！と思える人たちに会うことができました。自分の将来に不安を抱えていましたが、今は将来の夢も持つことができました。